



CHARTERED IN
NOVEMBER 21, 1955

THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

札幌クラブ

2026年8月

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(561)5217

戦略2032

— 主 題 —

国際会長 Waking the Sleeping Giant with Blue Music
アジア会長 Awakening the Asia Pacific Area with Blue Music
東日本区理事 「挑戦なくして進化なし」
No Challenge, No Progress
北海道部部长 「初心に帰り、さらなるステップアップへ」
札幌クラブ会長 「充実した人生を送るためのワイズ活動」

J・W・エルトヴィク
ラチャン・マニカーン
山下 真(十勝)
矢竹 克年(十勝)
小野 健(札幌)

札幌クラブ役員
会長 小野 健
副会長 山崎 修
書記 本宮 大輔
会計 秋葉 聡志
直前会長 小野 健

「例会で『私も一言』コーナーを導入しましょう。」

中田 靖泰(北川 佳治 選)

巻頭言「パウダースノーとウエルネスライフ」

山崎 修

来る9月、日本ウエルネス学会のシンポジウムにパネリストとしてお声がけいただきました。テーマは「北海道のウエルネスライフ」。せっかくの機会なので、今回の巻頭言でも少しその内容に触れさせていただきます。

北海道のパウダースノーは、いまや世界共通の言語になりました。ニセコをはじめ、欧米やアジアから地球を半周してスキーヤーやスノーボーダーがこの雪に会いにやってきます。昨シーズン、ニセコ地域の国別外国人宿泊者数でアメリカが初めて首位に立ちました。そしてこの冬からは、ユナイテッド航空のサンフランシスコ線とエア・カナダのバンクーバー線が新千歳に同時就航します。北海道と北米が直行便で結ばれるのは史上初のことです。

ところが、ニセコでスキーガイドをしている友人は、明らかに雪が減り、ハイシーズンが年々短くなっていることを肌で感じていると言います。一見矛盾のように聞こえますが、ここに面白い感覚のギャップがあります。道産子にとっての「新雪」は二、三十センチの積雪をイメージしますが、欧米から来たスキーヤーの中には、拳ひとつ分の深さのパウダーに歓声を上げる人がいるのです。彼らの故郷のゲレンデでは、それすら望めないほど雪が少なくなっているからです。世界的な雪不足が、皮肉にも北海道の「まだある雪」の価値を押し上げているとも言えます。

しかしその一方で、世界が憧れるこの雪を持つ北海道で、道産子自身のスキー離れが進んでいます。か

つては庶民の冬の遊びだった雪上スポーツが、地元の子どもの生活から静かに消えつつあるのです。私自身、元フリースタイルスキーモーグルの選手として冬季オリンピックに挑んだ経験があります。あの頃感じていたのは、スキーやスノーボードという競技の不思議さでした。上達すればするほど、見える景色が変わっていくのです。初心者の頃は怖かった斜面が遊び場になり、やがて雪面の声が聞こえてくる。深呼吸をして斜面に入り、心拍が高鳴り、やがて自然と一体になる — この「変化し続ける体験」こそが、生涯にわたって人を雪山へ呼び戻すウエルネスの本質ではないかと思うのです。

以前この欄で、娘たちのマウンテンバイクの話を書きました。スキーもマウンテンバイクも、二人乗りができず、自分自身のリスクを自分で管理しなければならないという共通点があります。これは大げさに言えば、生きる力そのものを養うことにつながっているのではないのでしょうか。

石材業を営む私にとって、「遺すこと」と「滑ること」は一見遠い営みに思えますが、どちらも次の世代へ何かを手渡す行為だという点では同じです。北米直行便の就航で、インバウンドでの圧倒的な体験スポーツ・ナンバーワンの座はまだしばらく続くでしょう。しかしその追い風を一過性のブームに終わらせず、道民自身が再び自らの雪を遊び、次の世代へ滑り継いでいく — それこそが「北海道のウエルネスライフ」の核心だと、シンポジウムでもお話しさせていただく予定です。

2026年7月例会

在籍会員 10名

出席者 9名

メネット 0名

メイクアップ 0名

出席報告

ゲスト 0名

ビジター 0名

出席者合計 9名

出席率 90%

札幌ワイズメンズクラブ 2026年8月例会

日 時：2026年8月18日（火）
18:30～20:30

会 場：札幌YMCA 101教室＋リモート

会 費：1,500円

- | | | |
|-----------------|----|------|
| | 司会 | 山崎 修 |
| ① 開会点鐘 | 会長 | 小野 健 |
| ② ワイズソング、ワイズの信条 | | 全 員 |
| ③ 今月の言葉・なぜこの言葉を | | 小野 健 |
| ④ 開会あいさつ | 会長 | 小野 健 |

⑤ 誕生日 8月25日 北川 綾子

8月27日 安田 文子

⑥ 結婚記念日 なし

⑦ 卓話 「各会員からの近況報告」

⑧ 諸報告

⑨ YMCA報告 担当主事 北川 佳治

⑩ 今月の歌 「Y.M.C.A」

Village People（伏木 康 選）

⑪ 閉会点鐘 会長 小野 健

札幌ワイズメンズクラブ2026年7月例会

日 時：2026年7月21日（火）18:30～20:30

場 所：札幌YMCA101教室＋リモート

出席者：秋葉、小谷、北川、柴田、伏木、宮崎、
山崎、本宮、（OL）小野、

出席者計 9名

表 題：「中田靖泰メンを偲んで」



長年にわたりワイズメンズクラブにご尽力され、東日本区理事も務められた中田靖泰メンが、去る7月17日に95歳にて召天されました。

今回は、中田メンを偲ぶ会を行いました。

中田メンがお子様送到了メール
（葬儀の際に配布されたものから抜粋）



ynakata@ruby.ocn.ne.jp

to me, Erika ▼

Sat, Apr 4, 10:27 AM



千恵里様、恵里花様

「さよならだけが人生だ」という言葉をご存じですか？「勸酒」という中国の詩の井伏鱒二の名訳（迷訳）で有名です。（「さよならだけが人生だ」で検索してみてください。）

「さよならだけが人生ならば人生なんかありません」と茶化した人もいます。

人生は最後は「さよなら」で終わるのは確かです。しかし、「さよなら」の前に同じ数の「出会い・こんにちわ」があり、その間にぎっしりと思い出が詰まっているはずですよ。

私は千恵里と恵里花と出会って60数年経ちました。間もなく「さよなら」の時が来ますが、沢山の「忘れえぬ思い出」があります。そのいくつかを感謝とともに思いつくまに書いてみようと思います。

時々書き足しますので、そのたびに前のは消去して下さい。

靖泰

+++++

+ 中田靖泰

+ Yasuhiro Nakata

【札幌クラブ70周年において永年会員表彰を 受け取ったときの中田メンからのコメント】

一言、お礼の言葉を述べさせていただきますと思います。

お手元にあります、札幌クラブのブリテンの、巻頭言に「70年前に日本が『三種の神器』という言葉が流行ったんですよ」と書きました。私も、結婚する時に三種の神器を揃えるのに、大変苦労したことを覚えております。三種の神器というのは、洗濯機と、何でしょう、テレビと、もう一つ、冷蔵庫、何でしたっけ。あ、炊飯器。テレビと冷蔵庫と炊飯器。今、無い方が珍しいですよ。

本当に時代は変わりました。時代とともにワイズも大きく変わっています。私がワイズに入会した時は会計の柱という、古切手の収集と、それから年賀切手、年賀のハガキの切手ですね。例会ごとに、これを売るために封筒をつけて、切手を剥がしたのを、今、懐かしく思い出しております。インターネットなんかなかったですから、全て紙でした。会長、あるいは役員なんかになったら大変です。日本中のクラブから会報が届きまして、私の家のメールボックス、郵便受けなんか溢れてしまって、近所の人から「何か商売でもやってるんですか」と言われるくらいで大変でした。

そのブリテンだって、今のような立派なブリテンではありませんからね。質の悪い藁半紙にガリ版刷りの。ガリ版ご存知ですか？ ガリ版刷りのね。そういうブリテンでした。でもまあ、紙は紙の良さがあって、送られてきたものは全部で皆、回覧しましたからね。日本中のクラブの様子を知ることができましたよね。

今は色々変わりましたね。メネットはほとんど消えました。女性会員というのは、もう大変多くなられて結構なことだと思います。代表とか、あるいは外国からの高校生を受け入れてましたよね。そんなのも無くなりました。変わったことを挙げてたらキリがありません。

しかし、変わらないこともあると思います。変わらないものはワイズのユースに対する、あるいは地域に対する、熱い思いだと思います。そこにも変化は感じられません。かつては、ワイズのユースに対する、何ていうか、そういう形はあった、上からの目線というのは感じられましたが、今ではむしろ、ユースとともに、ともに語り、ともに学び、ともに楽しみ、そしてともに成長する、そんな感じがいたします。

「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」と言った人がいますよね。誰かも言います。私、老ワイズは、今日消え去っていきます。

こんな言葉を、札幌ワイズメンズクラブに残した、送りたいと思います。

「時代に合わせ、ユースのニーズに合わせて、しなやかに変われ、したたかに。変わるな、札幌ワイズ」

今、としびを、平成の札幌ワイズに残したと思っております。

令和の札幌ワイズは、アフリカとアジアを飛び

回っている小野会長。それから、日本ワイズや世界ワイズを探してみても、ただ一人のオリンピックワイズ、山崎君。それから世界、日本中を駆け回っている実業家の柴田君。それから教師になられた本宮君。後でお聞きになると思いますが、ショパンを弾かせたらただものではないピアニストの安田さん、などなど多彩な達人がいます。

このとしびを大きく育てて、引き継いで、創立80年、90年、100年を迎えていただきたいと思います。

札幌クラブが70年の歴史を刻むことができたのは、札幌クラブだけの力ではありません。北海道の他のクラブはもちろんだけど、「活力あるワイズとはこういうものだ」といつも示してくれた千歳クラブ。それから、大水害の支援のために、今日はお見えになっていませんけれども、いつも遠くから支援してくださったタイ・チェンマイクラブ。そのほか多くのクラブの協力のおかげであります。

最後に、一つの祈りを札幌クラブに送りたいと思います。こういう祈りです。

「神よ、変えることのできないものを、冷静に受け入れる力を、私にお与えください。また、変えるべきものを、変える勇気を、私にお与えください。そして、何よりも、変えられないものと、変えるべきものとを見分ける、叡智をお与えください」

ラインホルド・ニーバーの祈りであります。ご列席の皆様、長い間本当に本当にありがとうございました。今後とも札幌クラブを温かく見守り、お指導いただけますようありがとうございました。



永年会員表彰を受け取る中田メン
(2025年10月25日 札幌クラブ70周年にて)



ダイヤモンド婚 1959-2019

中田千鶴メネット (左)、中田靖泰メン (右)

【中田メンを偲んで①】

<秋葉 聡志>

「中田先生を偲んで」

中田靖泰・千鶴ご夫妻とのお付き合いが始まったのは、私が2度めの帯広ランチ赴任を終え、札幌ランチに異動した2002年頃からかと思います。札幌ワイズの担当主事になり、その頃はYMCAの裏隣の喫茶店「ドルフィン」で例会を行っていたことが懐かしく思いだされます。そのうち、所属教会も、帯広赴任中に洗礼を受けた日本キリスト教会帯広教会から札幌で通い始めた同じ教派の札幌豊平教会に転会すると、そこは中田ご夫妻も所属する教会でした。その後、千鶴さんとは長老（役員）を一緒に担うようになり、中田先生にはお考えがあつたか教会ではお会いすることはありませんでした。ご夫婦ともに親しくしていただきました。

中田先生は、北大出身で寮生ではありませんでしたが、長年「北大寮歌祭」の運営に携わっておられ、自分が一番の年少者で、80歳を超えてもいつまでも下っ端の小間使いだと思われておられました。私が信州大学の教養部時代に旧制松本高校時代から続く思誠寮の寮生だったことを知って、いろいろと寮歌祭の情報を教えてくれました。

ユーモアのセンスが抜群で、様々な文書にも、また日常のメールのやりとりでも軽妙な語り口で思わず笑われる文章が光っていました。いつも穏やかでシリアスな話題も飄々として受け流しつつ、冷徹な目でユーモアに変えて表現するジェントルマンでした。

チミケップのワークキャンプにも何度か一緒させていただきました。先生は高齢になっていましたので、主に記録係と自称して愛用のデジカメでワークの写真を撮ってくれました。一度キャンプ場の小さなキャビンに二人で枕を並べて泊ったことがありました。キャンプ場に泊まるのも大変でしたので、疲れが残ることを心配しましたがその時は案外元気に帰ってきました。それも90歳を過ぎての2023年のワークが最後の参加となりました。また様々なYMCAのイベントにも足を運び写真を撮ってくれました。毎年YMCAバザーでカレーライスとコーヒーの店を一緒に出したのが良い思い出です。

クラブ会報のブリテンの編集を長く担当してくださり、千鶴さんが亡くなられ、ご自分が施設に入ることになる2025年1月号まで続けてくれました。施設入所後も、メールでのやりとりは続いて、時には今月の歌の歌詞カードや卓話のポスターを作ってくださいました。過去のブリテンを振り返ってみると、「会合には出席第一を旨としよう」というワイズの信条の通り、例会に休まず出席されていることがわかりました。最後の例会出席は2024年12月例会でした。まさにワイズの生き字引、ワイズの良識であり、生涯現役のワイズメンでありました。

私は、いつぞやの北海道部会の挨拶で、ワイズの信条に「死ぬまでワイズを続けよう」という信条

を加えようと提案しましたが、まさに中田先生はワイズメンのお手本でありました。先生を見習って、「死ぬまでワイズ」を貫こうと思います。

<小野健>

札幌クラブに入会したすぐあとから中田先生・千鶴さんのお宅に家族を夕食にご招待していただきました。当時はまだエリナも子どもたちも日本での生活に完全に慣れてはおらず、本当に暖かく小野家を見守っていただきました。

中田先生はとても好奇心旺盛で、私がアフリカで仕事をしているので、アフリカに関する様々な情報をキャッチして共有していただき、向こうの治安は大丈夫か、体には気をつけなさいといつもお言葉をかけていただいたことは、今でも鮮明に記憶に残っています。

<小谷和雄>

「中田靖泰ワイズを偲んで」

中田先生、長い間ワイズメンズクラブで活躍されましたことを感謝致します。札幌クラブのメンバーに確認しても「中田先生の入会はいつ」に伝えてもらえませんでした。私の入会時期に近かったと思います。私は札幌北クラブの二期目、1982年7月入会です。初めてクラブ会長に就任したのは1986年でした。同時に札幌クラブの会長さんは中田先生でした。ですから、中田先生の入会は1982年の前後だと思いますが・・・。

日本区が国際にて発言を強めるため、日本区は東西に分かれました。1999年に第三代目の東日本区理事として中田先生が就任しました。船上での理事引継の言葉が印象的でした。

1999年6月の東日本区大会は、三島クラブがホストで遊覧船での大会でした。船上でのワイズ大会は初めてで、二度目はまだありませんが、外海に出ると船が揺れるので、駿河湾の中で一晩中回遊していました。日曜日の午前の理事引継式にて中田靖泰第三代理事は「これが本当の中田丸の船出です。」と挨拶されたのが非常に印象的でした。

札幌クラブの通常の例会後、中田先生を車に乗せて、パークホテル横のマンションまで良く送っていくことがありましたが、奥様の千鶴さんが施設に入院された後もマンションに一人住まいでした。不自由な身体で「食事や買い物は」と尋ねると、自分で準備すると言っていました。民生委員さん等の手助けがあったと思いますが、良く一人で出きるものですねと感心させられていました。

昔、オクスフォードで三笠宮殿下と一緒にだった話も聞かされていました。今回、娘さんが提供して下さった写真にも写真がありました。大物になる方は違うなど、これまた感心させられたところです。メネットの千鶴さんが先に天に召されると男は弱い者ですね。

お家族の上に平安をお祈り申し上げます。

【中田メンを偲んで②】

<柴田 伸俊>

「中田先生を偲んで」

私が札幌クラブに入会した当時は会員が25名程だったと思います。当時の会員には教職関係のメンバーも多くいらして中田先生もそのお一人でした。特に先生のお話しぶりはゆったりとした口調の中時にはユーモアを交えた、そして話される内容は実に見識が高いものでした。そもそも私が30代でワイズに入ろうと思ったのは、「上手に話が出来ようになりたい」でしたから最初のあこがれワイズでした。その後縁が有って東日本区理事になられた時は書記として同行させてもらい、東西のワイズを走り回りました。札幌クラブ70周年記念例会に車椅子でご参加いただいたのが最後のお姿でしたが、お話しいただいた内容が私向けへのメッセージのように聞こえていました。「柴田くん！ワイズを頼んだよ」

その事をお別れの会で次女の千恵里さんにお話ししたら、「本人も言いたい事を皆さんの前で沢山お話しできたのがとても良かったと思います。ありがとうございました」とおっしゃっておられました。こちらこそ長いお付き合いありがとうございました。

<伏木 康>

「中田先生とチミケップ」

2022年7月16日、ワイズ恒例のチミケップワークが行われました。当時、中田靖泰ワイズは91歳。札幌から車で300キロの距離、ワークに参加すると聞いてまずビックリしました。

また、ワークの記念に湖の栈橋で記念写真を撮ることになりました。栈橋は老朽化しており、足元がグラグラしていましたが、湖に落ちてもいいからという先生の手をみんなで引いて栈橋を歩いた思い出は忘れることはできません。

<宮崎 善昭>

「中田 靖泰 先生を想って」

私は、先生にお会いする前に奥様の千鶴さんにお会いしていました。それは、私がYMCAの職員だったとき厚真キャンプで、障害のある児童のキャンプをYMCA賛助後援会の女性理事が中心となった「障害児キャンプと共に歩む友の会」から食事（カレーライス）提供の支援をして頂きました。デザートもあり子どもたちには大人気でした。そのメンバーに千鶴さんもいらっしゃいました。

中田先生とは、1989年9月千歳のザ・ノースゴルフクラブで行われたワイズ、YMCA職員合同ゴルフコンペで同組ではありませんでしたが一緒したのが最初だったと思います。無類のゴルフ好きで、イギリスに留学されていた時にはまったとおっしゃっていました。おやみに距離を求めず戦略的にコースを攻めるタイプの堅実なゴルフだったと記憶します。お人柄なのでしょうね。この2年でスコア90を切る約束をしましたが、残念ながら果たせませんでした。お話ししてもいつも

ユーモアが感じられ場がとても和みました。

先生、私もそっちに行ったらまた、大いにゴルフ談義に花を咲かせましょう。おっと、私は先生の方には行かせてもらえないかもしれません。今からでも悔い改めなければ。

<本宮 大輔>

まだワイズ歴が3年ほどの私は多くの思い出を重ねることはできませんでしたが、先生からブリテン編集の重責を引き継ぐことになりました。先生の年代の方が作られたと思えないしっかりと組み込まれたWordファイルを読み解いていく中で、毎月のブリテン編集でご苦勞のあとを感じました。

恐らく現役を退かれた後にパソコンの使い方を試行錯誤しながら学ばれたのだと思います。いくつになっても、好奇心を持って、挑戦していく姿に頭が下がります。

<山崎 修>

中田先生へ。いつも二人の娘たちと遊んでいたき、ありがとうございます。同じく二人の娘さんをお持ちの先生だからこそその温かさだったのかもしれない。いただいたぬいぐるみ、大切にいたします。

<安田 文子>

中田先生のご逝去を知り、とても悲しく寂しい思いです。私のつたない話にもいつも笑顔で耳を傾けてくださり、ポーランドから帰国した時には、奥様とご一緒にお宅に招いていただき温かいアドバイスをいただきました。先生のイギリスのお話など聞くことができたのは、私にとってかけがえない思い出です。

いつも何かと気にかけてくださったご恩は忘れません。これまでのご厚情に深く感謝申し上げますとともに、安らかなご永眠をお祈り申し上げます。



2022年チミケップワークでの集合写真



集合写真

前列左から本宮、柴田、宮崎、北川
後列左から小谷、伏木、山崎、秋葉（OL）小野、

■短期集中サマープログラム報告

札幌YMCAでは、この夏休みも多くの体験活動が展開されました。サマーキャンプをはじめ、アクアティック・ジムナスティック・学び・児童デイなどのプログラムに総勢1,100名程の子ども達が集まりました。

次回の短期集中プログラムは、12月～1月のウィンタープログラムをお待ちください。スキースクールをはじめ、多彩な体験活動をご用意しておまちしております。



リバートレッキングキャンプ。



アクアティック

何故この言葉を 北川 佳治

『私も一言』とは、中田靖泰先生が札幌クラブの例会進行上のセッションのひとつとして取り入れられたコーナー名を指します。ゲストの卓話を聞き、隣席のワイズメン同士で近況を語り合う他に、短くても皆さんの前で一言を共有する時間を設けてあげたい、という一人ひとりにスポットライトを当てるお心遣いです。この考え方は、私の中でも大切にしていることの一つとして残り続けています。

■【北海道YMCA】第31回北海道YMCAインターナショナルチャリティーラン

2026年9月27日（日）に、第31回北海道YMCAインターナショナルチャリティーランを「北海道立 真駒内公園（札幌市南区）」にて開催いたします！

「駅伝」、「ファミリー」、「個人」のカテゴリーをご用意し、秋の涼しい気候条件の中で開催いたします。

【本企画の趣旨】

障がいのある子どもたちを支援するとともに、“障がい”への社会的な理解と関心を高めることを目的とした大会です。その参加費は障がいのある子どもたちが様々な体験活動をするための資金として活用させていただきます。

はじめての方もお気軽にご参加ください。皆さまのRUNが、支援につながります。



私たちは障がいがある子どもたちを応援しています。

第31回 北海道YMCA

インターナショナル・チャリティーラン2026



日程：9月27日（日）

会場：北海道立真駒内公園



■ National Sponsors
1541626 24-



2101-4821-



■ **Supporting Sponsor**

「サウ・ア・ファイン・スコーンサー」

[illegible]

札幌クラブ2026年7月事務会報告

本宮 大輔

日時:2026年7月28日(火)19:00~20:30

場所:オンライン

参加者:小野(長)、秋葉、小谷、柴田、伏木、宮崎、
本宮

1.8月号ブリテンについて

原稿執筆担当者、ブリテン編集担当(仮)などを資料に基づき協議、決定

2.8月例会について

日時:2026年8月18日(火)18:30~20:30

場所:北海道YMCA 101教室(ハイブリッド)

卓話ではなく、会員からの近況報告とする。

3.2026年9月以降の例会卓話について

卓話候補を確認し、アサイン担当を確認した。

4. 2027年東日本区大会@札幌について

前夜祭会場、エクスカッションについて協議が行われた。

5. 2025~26年度決算報告・

2026~27年度予算

25-26決算および監査結果が報告された。また、
26-27予算を決定した。

5.その他

- IYC@ペナン・マレーシアに助成内容を確認し、ユースおよび汝羊寮のメンバーに声がけすることになった。
- 夕張メロンプロジェクトの進捗について共有された。(今季はすでに終了。)
- 十勝いもほりは、今年度も実施し、現在日程調整中。
- 12月チャリティーコンサートの準備状況の確認(YMCA報告)
- チャリティーランが9月27日(日)真駒内公園にて開催される。
- チミケップリーダー研修が8月11日に行われる。

何故この歌を！伏木 康

1970年代後半にヒット、日本では西城秀樹もカバーしました。

米国等の政治的イベントに使用されることについて、世界YMCA同盟で昨年コメントが出されています。

北海道日本ハムファイターズや横浜ベイスターズの主催試合において、また、メジャーリーグでもヤンキースタジアムで中盤にこの曲が流れ、観客の多くは両手を上げます。

今年の6月30日、ヴィレッジ・ピープルのリード・ボーカル、ヴィクター・ウィリスが74歳で亡くなりました。

牧師の息子として生まれた彼は、父の教会で歌唱力を磨いたそうです。

私は高校生の時、Village Peopleのレコードを購入、勇気をいただきました。

